

「Society5.0時代に向けたAI・データサイエンス入門教育プログラム」自己点検・評価

- 評価日時 メール審議
- 会議名称 IoT・AI・データサイエンス教育研究推進センター会議
- 開催場所 Microsoft Teamsによるオンライン会議
- 議 題 数理・データサイエンス・AI教育プログラムの自己点検・評価、他
- 評価項目 文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度(リテラシーレベル)」の審査項目の観点による評価

S: 審査項目の観点を上回る成果を達成した。

A: 審査項目の観点通りの成果を達成した。

B: 審査項目の観点通りの成果を達成できなかったが、達成に向けての対応策が立案され、対応に着手している。

C: 審査項目の観点通りの成果を達成できなかった。さらに、達成に向けての対応策が立案されていない。

自己点検・評価の視点	評価結果	評価理由
1. プログラムの履修・修得状況	S	<ul style="list-style-type: none">● 本教育プログラムは全学部・全学科の必修科目で構成しており、履修状況は自己点検・評価の対象外とした。また、修得状況は全学で94%となり、非常に良好であった。● 来年度以降の修得率を向上させるため、Excelの操作方法等、情報リテラシーが低い学生向けの支援や、e-learningの進捗状況が順調でない学生の支援を強化していく。
2. 学修成果	A	<ul style="list-style-type: none">● 本教育プログラムの履修前後で学習効果測定用テストを実施し、AIに対する正しい認識が多く持てるようになったことを定量的に確認した。実データを用いた演習内容の改善、他の専門科目と関連付けた説明、SA導入によるサポート体制強化などが効果を発揮した。
3. 学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	S	<ul style="list-style-type: none">● 授業アンケートの結果、本プログラムの到達目標を達成したかどうかの問いに対し、「ほぼ達成した」と回答した学生が約50%、「ある程度達成した」と回答した学生を含めると97%となり、非常に高い割合となった。今年度はアンケート回答率が低かったため、来年度は回答への協力依頼を強化する。● 来年度も各学科の専門分野におけるAI・データサイエンスの最新活用事例を紹介するなど、学ぶ意欲を高めるための工夫を継続する。

自己点検・評価の視点	評価結果	評価理由
4. 学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	—	<ul style="list-style-type: none"> ● 本教育プログラムは全学部・全学科の必修科目で構成しており、自己点検・評価の対象外とした。 ● 受講生にとって有意義なプログラムであったかどうかは授業アンケートにおいて確認できるようにしており、大学のホームページを通して修得状況や学習の質を高めるための取り組みを紹介していく。
5. 全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	—	<ul style="list-style-type: none"> ● 本教育プログラムは全学部・全学科の必修科目で構成しており、自己点検・評価の対象外とした。
6. 教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	B	<ul style="list-style-type: none"> ● 学生の進路を主管する「教学支援部」と連携し、今後、本科目の修了者の就職先や業務状況、就職先からの評価等の把握を進める。 ● 本学が主催する企業懇談会等の機会を活用して採用担当者や卒業生にアンケート調査を実施し、教育プログラム修了者の企業における活躍状況や、本教育プログラムの学修効果等について把握していく計画である。
7. 産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	A	<ul style="list-style-type: none"> ● 広島県と連携し、本教育プログラムの内容をベースとして、Excel を使ったデータ活用と分析の基本をテーマとし、データの活用と分析に至るプロセス、データのクレンジングと可視化、基本統計量・クロス集計表の作成、相関と回帰分析(最小二乗法)の講座を提供した。 ● 2025年度2月に企業の方々を受講して頂いた。教育プログラムの内容について意見・要望を収集し、プログラムの改善に活用していく。
8. 数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	S	<ul style="list-style-type: none"> ● 各学科と関連が深い企業における活用事例を紹介したり、実データを用いた演習を盛り込んだりしながら、学ぶモチベーションを向上させることに取り組んだ。また、他の科目との関連を意識した講義内容になるように工夫した。 ● 広島県が推進している「ひろしまQuest」のAI人材開発プラットフォームであるSIGNATEを利用し、各学科の学生の特徴に合わせたアクティブラーニングを継続した。 ● SIGNATEレベルアップコンテストを開催し、学習意欲の促進を試みた。
9. 内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること	S	<ul style="list-style-type: none"> ● 学生アンケートの結果や担当教員から見た学生の反応等の情報に基づき、学生の「分かりやすさ」の観点から講義の内容・実施方法の見直しを行っている。授業担当教員間で工夫点や反省点等を共有し、授業内容／水準の統一や改善を進めている。 ● 使用したe-learning教材は70%の学生が学習支援として有益であると回答しており、継続して活用していく予定である。